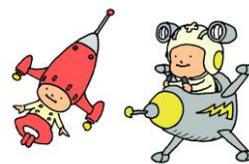


小児がんセンターたより



小児がん拠点病院としての教育・研修活動

神奈川県立こども医療センターで診療を受けておられる患者さんは、当院が全国 15 か所の小児がん拠点病院の一つであることを意識することはあまり無いと思います。最初の病院から当院を紹介された時も、拠点病院だから、というわけではなかったのではないのでしょうか。

実は拠点病院が求められている機能はいろいろあります。他の病院では経験がないような小児がんの診断・治療はもちろんのこと、一般病院ではなかなか難しい、小児専門の多職種による心理・社会面まで及ぶ専門的な支援、そのための多職種の教育・研修も重要な機能です。

当院小児がんセンターでは院内の多職種に対して研修会などは多数行ってきましたが、昨年度より一歩進めて、神奈川県内の病院の多職種（医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、言語療法士、放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、ソーシャルワーカー等）を対象とした「神奈川県小児がん従事者研修」を始めました。

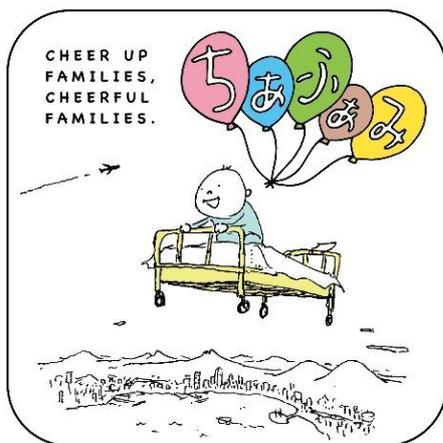
各専門職による月に 1 回、1 年間の講義ですが、新型コロナウイルスの影響で 1 か所に集まることができなかつたためオンラインでの研修になりました。ところがオンラインで遠隔地の方も参加しやすくなったことで、県全域から多数の参加者が集まる結果となりました。

皆さんが将来がんを克服された後、お近くの病院で長期フォローアップを受ける場合、このような研修を受けた専門職がいれば心強いと思います。どの病院でも安心してフォローアップが受けられることを目標にして、今年度以降も引き続きこの研修は継続する予定です。

小児がんセンター長 北河 徳彦

「ちあふあみ！」はじめました！

小児がんの治療は、お子さんだけでなくご家族も大変です。そんな小児がんの患者さんとご家族を何かの形で応援できないかと、当センターの有志が集まって立ち上げたボランティア団体です。2020年に動き始めたばかりの小さな活動の輪ですが、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・保育士・病院事務・OB・OGなどいろんなメンバーが集まって、知恵を出し合っている所です。



昨年は「リラのいえ」のお手伝い、病院へのオンライン面会用のモバイルや絵本などの寄付を行いました。コロナ禍で大変な時だからこそ必要なこと、またアフターコロナの楽しい企画などを準備できればと思っています。

ご興味のある方は是非、一緒に活動しませんか？



「ちあふあみ！」代表 柳町昌克
(神奈川県立こども医療センター 血液・腫瘍科医師)

「小児がんセンターより研修のお知らせ」

●2021年度神奈川県小児がん従事者研修

6月22日(火) 固形がん

7月27日(火) 脳腫瘍

8月24日(火) 化学療法と治験/造血細胞移植

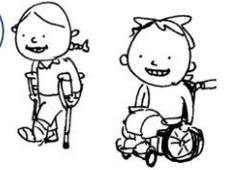
(詳しくは、各施設に配布の案内・当院HPをご確認ください)

18:00~19:00

Web参加可能



小児がん相談支援室情報コーナー ～小児がんのこどもの 学習支援について～



小児がんで治療しているこども達は、半年～1年程度の長期にわたる入院生活を送ることが多く、その年齢に応じて、幼稚園や学校など、それまで普通に通っていた集団生活から突然離れてしまいます。

各医療機関の中には、院内に特別支援学校や特別支援学級が設置されていたり、訪問による指導を受けられたりする場合があります。多くの場合、小・中学生が対象となっています。当院には、横浜南養護学校が併設されており、多くのこども達は地元の学校から学籍を移して、病院の中で学校生活を送っています。その際横浜南養護学校は、地元の学校とのつながりが切れることのないように、地元校の教員と連携して情報交換を行ったり、退院する時には、本人やご家族の希望に応じて地元校との「復学支援会議」を行ったりして、こども達ができるだけスムーズに地元の学校に戻れるように支援をしています。

高校生の段階では、高等部を設置している学校が非常に少ないこともあり、所属する高校と本人や家族が相談して、教員が訪問して授業を行ったり、オンラインで授業を行ったりするケースもあります。

しかし、学校それぞれの方針も違うことやコロナ禍も相まって、全ての小児がんの高校生が等しく学習支援を受ける状況には、まだまだ至っていないのが現状です。

それでもこども達は、地元の学校に戻ってお友達とまた一緒に過ごすことを願いつつ、治療に取り組みながら宿題をしたり授業を受けたりと毎日頑張っています。

そんな小児がんのこども達の頑張っている姿を多くの方々に理解してもらい、地元の学校に戻ってきた時には、温かく迎え入れていただけるとよいなと思います。

全国特別支援学校病弱教育校長会作成
「病気のこどもの理解のために」
情報掲載サイト：国立特別支援教育総合研究所



小児がんに関連したご相談は
「小児がん相談支援室」(本館 1 階 7 番窓口) までご連絡ください
時間：平日(月～金) 8:30～17:00
相談方法：面談・電話・メール
電話:045-711-2351(代) E-mail:shounigan@kcmc.jp

各部門からのお知らせ

～歯科～

歯科は2名の小児歯科専門医（歯科医師）と5名の歯科衛生士で当センターに通院している患者さんや、低年齢やその他の理由で外来治療が困難な患者さんに対して院内他科、病棟の協力を得て歯科治療を行なっています。

口腔内の汚れには歯垢（デンタルプラーク）や歯石などがあり、特に歯垢はたんなる「食べかす」ではなく、口腔細菌や細菌が分泌する様々な物質の塊です。不適切な口腔ケアにより時間をかけて蓄積する多量の歯垢は虫歯や歯肉炎、歯周病など多くの歯科疾患の原因だけでなく、口臭や感染の原因となるとも言われています。小児がん治療をしている患者さんに対しても歯科は関わっています。入院中の支援として定期的に口腔内の状況を確認し、虫歯などの歯科疾患があれば小児がん治療に影響が出ないように、歯科治療や慎重に経過観察を行います。移植など口腔内に問題が生じやすい治療前で、歯垢付着や初期虫歯が多く、口腔衛生状況が良くない患者さんに対しては、歯科衛生士が頻りに往診し、口腔のセルフケアが徹底できるように指導します。小児がん治療で使用した薬剤や放射線治療の影響が口腔内に出る場合があります。永久歯の形成異常が生じる場合が多く、虫歯や歯周病が進行しやすい構造となります。そこで外来受診中も虫歯ができないように経過観察やフッ化物を応用した虫歯予防、虫歯ができやすい生活習慣になっていないかの確認もしています。

これからも歯科は小児がん治療中、治療後の患者さんの口腔内状況向上のために支援していきたいと考えております。



歯科 成瀬 正啓